

北海道特集

～見逃せない魅力 函館の歴史建物～

北海道の観光地として有名な場所は数え切れないほどある。なかでも、函館は特に有名な場所の一つだろう。その函館の旧市街地に、近代建築が残っていることをご存知だろうか？。1859年に日本初の貿易港として開港し、異国の文化が日本の中でもいち早く上陸した函館には、外国のさまざまな様式が混在した建物が現在も数多く残っている。今日はそのうちの一つ、旧函館区公会堂を紹介しよう。

旧函館区公会堂は、大火で焼失した町会所に代わる施設として1940年に完成した。総工費は5万8000円。なんと現代の価値に換算すると12億円相当である。

建築にあたって、大工以外にも塗装工や左官など多くの職人が集結した。当時の最新技術がフル活用され、17～18世紀にイギリスやスペインで発達した建築様式であるコロニアルスタイルをベースに美しい洋風建築が実現された。豪華かつ優美な装飾に彩られた館内にはルネサンス風の面影が漂い、まるで中世ヨーロッパの宮殿にいるような雰囲気を感じることができる。

北海道の観光地としては広大な自然が最も有名な函館であるが、このように建築面でも魅力的な観光地が存在していることを忘れてはならない。明治、大正に人々が残した洋風建築は今でも市街地に華を添え、多くの人々に親しまれている。（ ）





思想を盗め！

『「詩」に生きた九二年 谷川俊太郎』

『「スィミー」、スヌーピーで知られる『ピーナッツ全集』、鉄腕アトム主題歌。これらの作品は教科書や絵本で多くの人が見かけたことがあると思います。聞き覚えのあるフレーズがあるという方も多いのではないのでしょうか。この作品の詩作、翻訳を手掛けた方は十一月十三日に九十二歳で亡くなった谷川俊太郎さんです。

谷川俊太郎の訃報に、歌人の俵万智さんは「谷川さんの詩は、言葉の重みと軽やかさを同時に教えてくれた。お会いしたときの穏やかな笑顔が忘れられません。」と語っています。

親しみやすい、でも理解できない。彼は詩の世界に新たな風を吹き込んだ現代詩人の巨匠として知られています。

谷川さんは一九三一年一月一日に東京都で生まれました。哲学者の谷川徹三を父に、政治家の娘を母に持ち、幼い頃から文学や音楽に触れて育ちました。彼が初めて詩を書いたのは高校生のとき。すぐに商業誌に紹介された彼の処女作の発表は二十一歳のとき。『二十億光年の孤独』でした。この詩集には、宇宙や人間といったテーマが多く扱われており、私達に親しみ深い言葉が深い感情や哲学的テーマを謳っています。ひらがなやカタカナが多くわかりやすく易しい言葉がリズムよく紡がれていることが多いです。

谷川俊太郎さんの詩は、日常に潜む哲学的な美しさを教えてくれます。ぜひ一度手にとって、あなたのお気に入りを見つけてみてください。（ ）

月高この1枚！



The annual "BookTalk"! We were happy that many people came to this event, hoo!!

場所：図書館 撮影：

このコーナーでは、局員が自身の体験や見聞を通して思ったこと、考えたことを、「そこはかとなく」書いた「エッセイ」を

月高生活に一途に

最近時の流れについてよく考えている。「今日も学校疲れたなー」なんて思っ気付いたらもう12月だった。僕としては、先月学校祭を終えた感覚なのだが、もう12月。なんと入学してから約200日も経ったそう。いつも通り学校に行って、友達に彼女早くつくれやーっといじられて、授業はいつも宇宙と交信して眠りにつき、家に帰ったらお風呂入ってご飯食べて……と、このように楽しくも同じような高校生活を過ごしていたらいつの間にかそんなに経っていた。どうも最近時の流れについていけない感じがする。僕が流行りだと思っていたものが、友だちに聞いてみるとそれは半年前に流行っていたものだった、ということもあった。今時の高校生の流行は一ヶ月単位で平然と変わるから恐ろしいものだ。一応僕は現役高校生なのだがついていけない。

歳をとるほど時間が感じる現象に「ジャネーの法則」というものがあるそう。どうやら心理的長さでいうと、20歳で人生の半分を終えるらしい。ただでさえ時が進むの早いなっと思っていたのに、成人したら心理的にはもう半分しか人生が残されていないと思うと悲しくなってきた。

しかし、時の流れに悲しんでいる時間は僕には残されていない。月寒高校の一員としてもっと勉強していい大学に行きたいし、友達ともっとはしゃぎたい。そして大切な人も見つけたい。そのためには一日一日をもっと充実させて、少しでも時間を長く使わないといけない。高校生活は人生で一番楽しい時間だと母親から助言をもらった。せっかく月寒高校に入学したのだから、人生で一番楽しい高校生活を送りたいと思う。時の流れに逆らうくらいの気持ちで生きていきたい。（ ）



分科会に参加して

私は、9月26日の全道図書研究大会の中で行われた分科会に参加した。私が参加した第八分科会では、前半で講師である編集者の方から、一冊の本ができるまでの過程について教えていただき、後半は掌編小説（ショートショート）を実際に書いてみました。

掌編小説を実際に書いてみる体験では、脈絡のない言葉同士をつなぎ合わせ、不思議な世界観をもつ小説を書くコツなどを教えていただいた。私は文芸創作部に所属しており、何度かまとまった小説を書いたことがある。しかし、限られた時間の中で小説を書くということをした経験がなかったため、とても新鮮であった。講師の方からも褒めの言葉をいただき、自信につながった。

今回の大会を通して、本ができるまでの過程について新たな学びを得ることができた。図書局の一員として、今後も精進していきたいと思う。（ ）



読者の方々の中で過去に、国語の授業で「ビブリオバトル」というものをやった経験のある人はいないだろうか？ ビブリオバトルを知らない人のために説明すると、自分の決めた本を「聞き手が読みたくなるように」紹介し、そのプレゼンを競うものだ。

毎年一度、高校生の全国大会が開かれている。北海道でも全国大会出場者を決める予選が開催されており、今回私はその予選にバトラーとして参加した。

結果を言ってしまうと、初戦負けである。悔しい結果にはなったものの、準備期間中、どうしたらその本の魅力を最も伝えられるかを考えた過程や、本番で多くの人の前で案外上手く喋れたことは、自らに本当に大きな成長と自信をもたらしたと実感する。「あ、なんだ意外とやればできるじゃん」という感覚は、何にも代え難い経験だった。

玉砕するのが怖くても、自分のレベルを知ることが怖くても、一度何かに飛び込んで挑戦すること。その価値は計り知れないものである。（ ）

片言隻語 朝は冷え込み、なかなか布団から出られないような季節になりました。日中の最高気温も一桁が当たり前となり、体調管理にも気をつけなければなりません。私は登校に1時間近くかかっており、そのうち40分以上は外を歩いているので、ポケットティッシュは必需品です。最近はカバンに予備で2袋、ポケットに1袋入れています。

一方で、寒いからこそ温かいものがより美味しく感じられると思います。コンビニでは、肉まんやおでんを販売しているところもありますね。私はコーンスープが飲みたいです。

今年は大雪になるとの予測もあります。怪我に気をつけ、冬休みを有意義に過ごせるようにしましょう。休み明けには実力テストがあります……。 （ ）